
視覚障害高齢者の健康状態と 介護条件について

花園大学社会福祉学部

狩野 勝也*

地域で暮らす視覚障害をもつ高齢者の生活実態について、従来、具体的な調査資料がなかったが、1994年の春に、京都府視覚障害者協会高齢部が、会員である60歳以上の高齢者について、自分たちの手で調査を行った。

調査結果の概要はおおむねまとまってきたが、細部についての分析は、遅々として進んでいない。従って、この小論では、その一部を紹介するにとどめざるを得ないが、種々啓発されるところの多い調査結果であると思われる所以、諸兄姉のご参考に供することができれば幸いであると思い、あえて、「健康状態と介護条件」という分野に限って、その概要を紹介する次第である。

1 調査の概要

(1) 調査の名称

「視覚障害高齢者生活実態調査」

(2) 調査の対象

当時の京都府視覚障害者協会会員1503人のうち、60歳以上のものは、全員で755人であったが、そのうち、622人の回答が集められている。

(3) 調査の時期

1994年4月から6月にかけて、実施された。調査の基準日は、あまり厳格には考えていないが、一応、1994年6月という整理をしている。

* かのかつや 花園大学社会福祉学部 京都市中京区西ノ京壱ノ内町8-1
電話 075-811-5181 FAX 075-811-9664

(4) 調査の方法

おおむね、市区町村単位にある協会支部ごとに、支部役員が対象者を訪問、質問用紙を配布して説明し、留置きのうえ記入してもらったものを回収するという方法がとられた。

(5) 調査の項目

性別、年齢、障害等級、家族、住居、健康、所得、労働、余暇、社会参加、生活不安、福祉サービスなど36項目の多岐にわたっている。

(参考) 京都府視覚障害者協会支部会員数など

	会員数	60歳超人數 (配布数)	回答数	人口 92年10月
京都市	854人	403人	323人	145.2万人
他の市	429	219	191	79.1
町 村	220	133	108	36.4
京都府計	1,503	755	622	260.7

調査全体の概要は以上のとおりだが、この小論文では、まず、「視覚障害高齢者の健康状態」に着目し、さらに、「将来のケア、介護条件」についての意識を整理して、その分析結果をご報告したいと思う。

2 調査項目のうち、関連する設問項目

調査の個々の内容については、今回は全容のご紹介は省略し、ここでは、直接関連する設問項目について掲げるにとどめる。

(1) 「健康状態」分析に関連する設問項目

問⑪ あなたの健康状態はいかがですか。

一つ選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 健康（とくに悪いところはない） | 2 あまり健康とはいえない |
| 3 寝たり起きたりの状態 | 4 6か月以上床につききり |

(関連分)

問② あなたの年齢は次のどれにあたりますか。

一つ選んで番号に○印をつけてください。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 60～64歳 | 2 65～69歳 | 3 70～74歳 |
| 4 75～79歳 | 5 80歳以上 | |

問③ あなたの障害等級は次のどれにあたりますか。

一つ選んで番号に○印をつけてください。

- | | | | |
|------|------|---------|------|
| 1 1級 | 2 2級 | 3 3級 | 4 4級 |
| 5 5級 | 6 6級 | 7 わからない | |

問⑤ あなたには、別居している方を含め、お子さんがいらっしゃいますか。

一つ選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問⑥ あなたのお宅の世帯構成は次のどれにあたりますか。

一つ選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 単身世帯（ひとり暮らし） | 2 一世代（夫婦のみ） |
| 3 一世代（兄弟姉妹のみ） | 4 二世代同居（あなたと親） |
| 5 二世代同居（あなたと子ども） | 6 三世代同居（あなたと子どもと孫） |
| 7 三世代同居（あなたと親と子ども） | 8 その他（ ） |

問⑦ 同居している家族の人数はあなたを含めて何人ですか。

一つ選んで番号に○印をつけてください。

- | | | | | |
|------|------|--------|------|------|
| 1 1人 | 2 2人 | 3 3人 | 4 4人 | 5 5人 |
| 6 6人 | 7 7人 | 8 8人以上 | | |

問⑧ お子さんがいらっしゃる方で、現在お子さんと一緒に住んでいない方

におたずねします。

あなたはお子さんとよく行き来していますか（手紙や電話を含む）。

一つ選んで番号に○印をつけてください。

- | | |
|-----------------|----------|
| 1 毎日のように行き来している | 2 週に1～2回 |
| 3 月に1～2回 | 4 年に数回 |
| 5 この1年間ほとんどない | 6 その他（ ） |

問⑯ 現在あなたは何か収入になる仕事をしていますか。

一つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 収入になる仕事をしている 2 収入になる仕事をしていない

(2) 「将来のケア、介護条件」分析に関連する設問項目

問⑰ 問⑪で「1 健康」とお答えの方にお聞きします。

寝たきりになったときは、どうして欲しいとお思いですか。

次の中から一つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 家庭で家族の手による世話
- 2 ホームヘルパーや保健婦の訪問など、公的なサービスを受けながら家庭での世話
- 3 家事代行サービスなどの民間の有料福祉サービスを受けながら家庭での世話
- 4 公的な特別養護老人ホームでの世話
- 5 民間の有料老人ホームでの世話
- 6 老人病院での世話
- 7 その他()
- 8 わからない

問⑯ 問⑪で「2 あまり健康とはいえない」「3 寝たり起きたり」

「4 6ヶ月以上床につききり」とお答えの方にお聞きします。

次のことがらのうち世話を必要とするものはどれですか。

あてはまるものすべての番号に○印をつけてください。

- 1 寝具の上げおろし
- 2 歩行
- 3 入浴
- 4 食事
- 5 用便

問⑭ 問⑯で1～5のどれかに○印をつけた方にお聞きします。

世話をする人はどなたですか。

あてはまるものすべての番号に○印をつけてください。

- 1 同居の家族
- 2 別居の親族
- 3 その他()
- 4 世話をする人はいない

(関連分)

上記（1）に準ずる設問の他に、下記の設問を活用している。

問⑩ あなたは、次のような身体障害者福祉サービス、老人福祉サービスを受けたことがありますか。

受けたことのあるすべての番号に○印をつけてください。

- 1 据装具の交付、修理
- 2 日常生活用具の給付
- 3 点字図書給付事業による点字図書の価格差補償
- 4 ホームヘルパーの派遣
- 5 ガイドヘルパーの派遣
- 6 盲老人介護人の派遣
- 7 中途失明者巡回生活指導員の派遣
- 8 鉄道・バス・タクシーの運賃の割引
- 9 NHK放送受信料の減免
- 10 ショートステイ（寝たきり老人など短期入所施設の利用）
- 11 老人デイサービス事業
- 12 その他（ ）

問⑪ 身のまわりの世話について家族以外に頼る場合、あなたの住宅ではどのようなサービスを希望しますか。

希望するものすべての番号に○印をつけてください。

- 1 日常生活をおくるのに支障がある人に、世話をする人を派遣する
- 2 希望する高齢者の家庭に食事を届ける
- 3 あなたの家や施設で入浴の手伝いをする
- 4 施設で日帰りで入浴や食事などの世話をする
- 5 一時的に世話が必要になった高齢者を短期間施設に預かる
- 6 日常の生活がしやすいよう、ベッドや車椅子などの用具を支給する
- 7 保健婦などが訪問し、療養方法や看護方法などの指導を行う
- 8 その他（ ）

3 京都府の視覚障害高齢者の 健康状態についての集計結果とその分析

（1）健康状態

健康（とくに悪いところはない）	260人	42.0%
あまり健康とはいえない	317	51.1
寝たり起きたりの状態	41	6.6
6カ月以上床につききり	2	0.3
計	620	100.0

健康状態について、回答者の主観によるものもありそうだが、こういう数値が出ている。

会員には現役の人たちも多いということから、寝たきり、あるいはそれに近い人たちの人数は大きく出てきていないのは当然といえる。しかし、「健康」な人が42%とは心細いことである。

また、「寝たきり」は、数値も極端に小さいので、以下では、「寝たり起きたり」に合算して検証していきたい。

●京都府視覚障害者協会は会員が京都府全域に住んでいるので、大都市や中都市、人口の少ない地域などでどのように違った結果が出てくるのか、関心があった。

人口100万人を超す大都市である京都市、市制を敷いている10市、北から、舞鶴市、宮津市、福知山市、綾部市、亀岡市、向日市、長岡京市、宇治市、城陽市、八幡市のグループ、それに、各町村、という3つのブロックに分けて集計した数値をみると、次のような結果が出た。

いわば、地域特性と言うか、その地域に生活している人たちの自然人としての差、その地域の社会慣習の差、住居と家族の形態の差、その地域の社会資源・福祉サービスの差などが、種々の形で、特徴として出てくるであろうと思われる。

（クロス集計では、回答のなかった分だけ該当数が減るので、総数で上記

の計数と異なってくる。以下同様)

	健 康		健康とはいえない		寝たり起きたり		計	
京都市	146人	45.2%	151人	46.8%	26人	8.0%	323人	100.0%
他の市	80	42.3	98	51.9	11	5.8	189	100.0
町 村	34	31.5	68	63.0	6	5.5	108	100.0
計	260	42.0	317	51.1	43	6.9	620	100.0

この結果から、一概に「町村部は健康な人が少ない」とは言えないが、視覚障害高齢者にとっての生活環境はなんらかの影響を与えていているのだろうか、刺激がある生活が大切なのだろうか……などと、改めて考えてみなくてはならない。

●全地域を通じて、年齢階層別（問②）に細分すると、少しサンプル数の少ないので気になるが、年齢階層が高くなるにつれて、健康な人の占める比率が減ってくる様子がはっきりと出て、次のような結果となる。

	健 康		健康とはいえない		寝たり起きたり		計	
60～64歳	71人	47.0%	72人	47.7%	8人	5.3%	151人	100.0%
65～69歳	74	46.5	79	49.7	6	3.8	159	100.0
70～74歳	53	37.3	81	57.1	8	5.6	142	100.0
75～79歳	35	36.9	50	52.6	10	10.5	95	100.0
80歳～	25	35.7	34	48.6	11	15.7	70	100.0
計	258	41.8	316	51.2	43	7.0	617	100.0

●障害等級（問③）と健康度との関係は、一見、ありそうな錯覚をもつただが、よく考えてみると、直接的な関係はないようと思われる。検証してみた結果、まさに、その通りであることが分かった。

障害等級に関係なく、健康と感じている人の占める割合は4割前後の似通った数値を示しているし、「健康とはいえない」と感じている人も5割前後と、共通しているという結果が出た。

	健 康		健康とはいえぬ		寝たり起きたり		計	
1級	166人	42.7%	196人	50.4%	27人	6.9%	389人	100.0%
2級	52	38.2	74	54.4	10	7.4	136	100.0
3級以下	39	42.9	46	50.5	6	6.6	91	100.0
計	257	41.7	316	51.3	43	7.0	616	100.0

●また、「現在、仕事をしているかどうか（問⑯）」は、仕事をしていることが健康保持のための要因でもあり、かつ、健康であるから仕事もしている、ということにもなるので、ある程度の因果関係があると考えられる。それを検証し、全年齢階層で、仕事中の人と仕事なしの人とを比較するため、クロス集計してみた。

	健 康		健康とはいえぬ		寝たり起きたり		計	
仕事中	122人	57.6%	88人	41.5%	2人	0.9%	212人	100.0%
仕事なし	124	32.9	218	57.8	35	9.3	377	100.0
全年齢	246	41.8	306	52.0	37	6.3	589	100.0

やはり、「仕事中」の人たちの健康と回答した数は6割近くとなり、「仕事なし」の人たちのそれが3割強であったのに比べて、2倍近い割合を示す結果となった。

●健康状態と世帯形態別（問⑥）との関係をみてみる。

「多世代同居」の人たちの健康度は高く、特に「三世代」の人たちは5割という数値を示している。逆に、「単身」の健康度はかなり低いものになった。

	健 康		健康とはいえぬ		寝たり起きたり		計	
単 身	47人	37.3%	75人	59.5%	4人	3.2%	126人	100.0%
一世代	91	40.3	115	50.9	20	8.8	226	100.0
二世代	56	41.8	70	52.2	8	6.0	134	100.0
三世代	57	49.6	48	41.7	10	8.7	115	100.0
計	251	41.8	308	51.2	42	7.0	601	100.0

- このことは、世帯人数(問⑦)との関係でも、同様のことが言えるようである。
「5人以上」の多人数世帯での健康度は5割を越えており、「単身」者の3割6分と比べると、その差は大きなものである。

	健 康		健康とはいえぬ		寝たり起きたり		計	
単身	46人	36.2%	77人	60.6%	4人	3.2%	127人	100.0%
2人	96	38.2	133	53.0	22	8.8	251	100.0
3～4人	58	46.0	59	46.8	9	7.2	126	100.0
5人以上	56	51.4	47	43.1	6	5.5	109	100.0
計	256	41.8	316	51.5	41	6.7	613	100.0

- さらに、「子どもがいるが別世帯の人」は、子どものいる475人中260人と、かなり多いが、その別居の子どもとの行き来の程度（問⑧）によって、差が出るかどうかも、関心を引いた。しかし、これは、別居の理由まで聞いていないこともあり、傾向は見出せなかった。

	健 康		健康とはいえぬ		寝たり起きたり		計	
毎日のように	18人	36.0%	25人	50.0%	7人	14.0%	50人	100.0%
週に1～2回	36	50.7	30	42.3	5	7.0	71	100.0
月に1～2回	41	45.6	46	51.1	3	3.3	90	100.0
年に数回以下	14	28.6	29	59.2	6	12.2	49	100.0
計	109	41.9	130	50.0	21	8.1	260	100.0

(2) 「将来のケア、介護条件」についての分析

- 問⑪で「健康」と答えた人には、さらに、問⑫で「寝たきりになったとして、どうして欲しいか」ということで、家族による世話、在宅サービス、施設サービスなどを例示して尋ねている。「その他」や「分からぬ」は除いた。
調査時点以降、高齢者福祉についての意識や、その前提となる社会資源の整備は、かなりの程度進んでいるので、その点を割り引く必要があるが、次のような結果となった。

家族による介護を期待している健康な人が最も多く、ついで、僅差で在宅

サービス利用、施設サービス利用と続いている。

また、京都市、他の市、町村の3つのブロックに分けて比較集計すると、京都市と他の2つのブロックとの間に差が出、家族に期待するのは他の市と町村に多いのだが、在宅サービス利用も、住宅の条件及び家族の手が準備されていると見られる他の市、町村の方が高い比率になった。

	家 族		在宅サービス		施設サービス		計	
京都市	48人	38.7%	34人	27.4%	42人	33.9%	124人	100.0%
他の市	36	47.4	24	31.6	16	21.0	76	100.0
町 村	13	41.9	11	35.5	7	22.6	31	100.0
計	97	42.0	69人	29.9	65	28.1	231	100.0

●問⑪で「健康」と答えなかった人には、さらに、問⑬で介助項目として「寝具のあげおろし」「歩行」「入浴」「食事」「用便」の5つを挙げ、「世話を必要とするものはどれか」と複数回答を求めて尋ねている。その結果は、次のとおりで、やはり、歩行に対する介助のニーズが高いことがはっきりと出ている。

例によって、京都市、他の市、町村の3つのブロックに分けて集計すると、3ブロックとも「歩行」が4割を越える割合になっているのは順当として、京都市の「寝具のあげおろし」2割5分が他と比べて高く、町村の「食事」2割6分が他と比べて高いのが目につくが、残念ながら、原因は究明できそうもない。

	京都市		他の市		町 村		計	
寝具	46人	26.0%	21人	19.3%	12人	16.2%	79人	21.9%
歩行	73	41.2	49	44.9	24	32.4	146	40.6
入浴	21	11.9	11	10.1	5	6.7	37	10.3
食事	30	16.9	21	19.3	15	20.2	66	18.3
用便	10	5.6	7	6.4	2	2.7	19	5.3
計	177 (180)	100.0 (101.6)	109 (109)	100.0 (100.0)	74 (58)	100.0 (78.2)	360 (347)	100.0 (96.4)

- 問⑪で「健康」と答えなかった人には、さらに統いて、問⑬の介助に関して、問⑭で、現在その「世話をする人は誰」であるかと問い合わせ、「同居の家族」「別居の親族」「その他」「世話をする人はいない」の中から複数回答を求めている。「世話をする人はいない」は少數なので省略して、その結果は、次のとおりである。なお、「その他」は概ねホームヘルパーを指している。
- 同じ結果を、例によって、京都市、他の市、町村の3つのブロックに分けて集計してみると、同居の家族に対する期待が、京都市の場合と、他の2つのブロックの場合とで大きく違い、大都市における家族の状況、家族に期待できない実状がよく反映されている。

	同居の家族		別居の親族		その他		計	
京都市	61人	34.5%	15人	8.4%	15人	8.4%	177人 (91)	100.0% (51.3)
他の市	63	57.8	5	4.6	11	10.1	109 (79)	100.0 (72.5)
町村	33	44.6	5	6.7	6	8.1	74 (44)	100.0 (59.4)
計	157	43.6	25	6.9	32	8.9	360 (214)	100.0 (59.4)

- 関連する問題として、2つの項目について触れて紹介しておく。

1つは、在宅介護サービスについて、家族以外にも期待し、希望するもの（問34）である。複数回答をしてもらっている。

公的サービスの整備が十分でなく、よく見えていないこともあり、はっきりとした意志が出ているとはいえないが、多分、数年前と比べれば、大きく前進していることであろうと思う。

目につくのは、町村でのホームヘルパーに対する希望の相対的な低さである。配食サービスに対する希望で少し補充しているようだが、まだ、社会に対する閉鎖的感情があるのだろうか。

他の項目については、とりたてて際だったものはないようで、例示された項目に適切に反応していると言えるであろう。

	京都市		他の市		町 村		計	
ホームヘルパー	115人	35.6%	64人	33.5%	28人	25.9%	207人	33.3%
配 食	89	27.6	41	21.5	31	28.7	161	25.9
入 浴	43	13.3	25	13.1	13	12.0	81	13.0
デイサービス	42	13.0	27	14.1	16	14.8	85	13.7
ショートステイ	74	22.9	36	18.8	25	23.1	135	21.7
生活用具	43	13.3	27	14.1	14	13.0	84	13.5
訪問看護	64	19.8	39	20.4	25	23.1	128	20.6
計	323 (470)	100.0 (145.5)	191 (259)	100.0 (135.5)	108 (152)	100.0 (140.6)	622 (881)	100.0 (141.7)

●2つめは、過去に利用したことのある福祉サービスについて（問33）である。

これも複数回答である。

補装具	212人	34.1%
生活用具	212	34.1
点字図書給付	31	5.0
ホームヘルパー	101	16.2
ガイドヘルパー	172	27.7
盲老人介護人	19	3.1
巡回生活指導	33	5.3
運賃割引	422	67.8
NHK受信料减免	261	42.0
ショートステイ	6	1.0
デイサービス	23	3.7
その他	7	1.1
計	622 (1499)	100.0 (241.1)

高齢者在宅福祉サービスの3本柱といわれているホームヘルパー、ショートステイ、デイサービスの利用を見ると、高齢者としての利用が不振であるのが目につく。ホームヘルパーは視覚障害者に対する適用が早くからあるから、まずまず利用されているが、他の2サービスは本当に少ない回答数である。今後の整備の進捗と利用の広がりを期待すること切なるものがある。